[redacted]

（様式第９）

医板病公発第　167号
平成１９年１０月３日

厚生労働大臣　殿

東京都板橋区大谷口上町[redacted]
日本大学医学部附属板[redacted]
病院長　澤　[redacted]

日本大学医学部附属板橋病院の業務に関する報告について

標記について，医療法第１２条の３の規定に基づき，平成１８年度の業務に関して報告します。

記

1　高度の医療の提供の実績　→　別紙参照（様式第１０）

2　高度の医療技術の開発及び評価の実績　→　別紙参照（様式第１１）

3　高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	128.1人

（注）　前年度の研修医の実数を記入すること。

4　診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→　別紙参照（様式第１２）

5　診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方式及び閲覧の実績
→　別紙参照（様式第１３）

6　他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→　別紙参照（様式第１３）

7　医師，歯科医師，薬剤師，看護師，及び准看護師，管理栄養士その他の従業員の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種		員数
医師	382人	95人	477人	看護業務補助者	40人	診療ｴｯｸｽ線技師		0人
歯科医師	3人	10人	13人	理学療法士	8人	臨床検査	臨床検査技師	84人
薬剤師	42人	0.2人	42.2人	作業療法士	3人		衛生検査技師	0人
保健師	52人	0人	52人	視能訓練士	5人		その他	0人
助産師	29人	0人	29人	義肢装具士	0人	あん摩ﾏｯｻｰｼﾞ指圧師		1人
看護師	670人	8.4人	678.4人	臨床工学技士	14人	医療社会事業従事者		5人
准看護師	8人	0人	8人	栄養士	5人	その他の技術者		7人
歯科衛生士	2人	0.1人	2.1人	歯科技工士	1人	事務職員		107人
管理栄養士	13人	0人	13人	診療放射線技師	62人	その他の職員		31人

（注）１　報告を行う当該年度の１０月１日現在の員数を記入すること。
２　看護士，准看護士は，それぞれ看護婦，准看護婦の員数に含めて記入すること。
３　栄養士の員数には，管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
４　「合計」欄には，非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下２位を切り捨て，小数点以下１位まで算出して記入すること。それ以外の欄には，それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8　入院患者，外来患者及び調剤の数

	入院分	外来分
１日当たり平均調剤件数	810.0剤	12.9剤

9　歯科，矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
１日当たり平均入院患者数	845.1人	1.8人	846.9人
１日当たり平均外来患者数	2199.4人	53.2人	2252.6人

（注）１　「歯科等」欄には，歯科，矯正歯科，小児歯科を受診した患者数を，「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
２　入院患者数は，年間の各科別の入院患者延数（毎日の２４時現在の在院患者数の合計）を暦日で除した数を記入すること。
３　外来患者数は，年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
４　調剤数は，年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

10　専任医療に係る安全管理を行う者の配置状況，医療に係る安全管理を行う部門の設置状況

→　別紙参照（様式第１３の２）

11　病院内の患者からの相談に適切に応じる体制の確保状況，医療に係る安全管理のための指針の整備状況

→　別紙参照（様式第１３の２）

12　安全管理の体制確保のための委員会の開催状況，安全管理の体制確保のための職員研修の開催状況

→　別紙参照（様式第１３の２）

（様式第１０）

高度の医療の提供の実績

１　高度先進医療の承認の有無及び取扱い患者数

高度先進医療の種類（医　科）	承　　認	取扱い患者数
・顔面骨，頭蓋骨の観血的移動術	有 ・ (無)	0人
・培養細胞による先天性代謝異常診断	有 ・ (無)	0人
・溶血性貧血症の病因解析ならびに遺伝子解析診断法	有 ・ (無)	0人
・経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法	有 ・ (無)	0人
・人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有 ・ (無)	0人
・人工中耳	有 ・ (無)	0人
・実物大臓器立体モデルによる手術計画	有 ・ (無)	0人
・性腺機能不全の早期診断法	有 ・ (無)	0人
・経皮的レーザー椎間板切除術（内視鏡下を含む）	有 ・ (無)	0人
・造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物Ｐ糖蛋白の測定	有 ・ (無)	0人
・スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	有 ・ (無)	0人
・血小板膜糖蛋白異常症の病型及び病因診断	有 ・ (無)	0人
・焦点式高エネルギー超音波療法	有 ・ (無)	0人
・ｵｰﾌﾟﾝMRを用いた腰椎椎間板ﾍﾙﾆｱに対するﾔｸﾞﾚｰｻﾞｰによる経皮的椎間板減圧術	有 ・ (無)	0人
・肺腫瘍のＣＴガイド下気管支鏡検査	有 ・ (無)	0人
・先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	有 ・ (無)	0人
・筋緊張性ジストロフィーのＤＮＡ診断	有 ・ (無)	0人
・ＳＤ１法による抗がん剤感受性試験	有 ・ (無)	0人
・内視鏡下頚部良性腫瘍摘出術	(有) ・ 無	1人
・栄養障害型表皮水疱症のＤＮＡ診断	有 ・ (無)	0人
・家族性アミロイドーシスのＤＮＡ診断	有 ・ (無)	0人
・三次元形状解析による顔面の形態的診断	有 ・ (無)	0人
・マス・スペクトロメトリーによる家族性アミロイドーシスの診断	有 ・ (無)	0人
・抗がん剤感受性試験	有 ・ (無)	0人
・子宮頚部前がん病変のHPV-DNA診断	有 ・ (無)	0人
・不整脈疾患における遺伝子診断	有 ・ (無)	0人
・腹腔鏡下肝切除術	有 ・ (無)	0人
・画像支援ナビゲーション手術	有 ・ (無)	0人
・悪性腫瘍に対する粒子線治療	有 ・ (無)	0人
・エキシマレーザーによる治療的角膜切除術	有 ・ (無)	0人
・成長障害のＤＮＡ診断	有 ・ (無)	0人
・生体部分肺移植術	有 ・ (無)	0人
・門脈圧亢進症に対する経頚静脈肝内門脈大循環短絡術	有 ・ (無)	0人
・乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術	有 ・ (無)	0人
・悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有 ・ (無)	0人
・腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	有 ・ (無)	0人
・声帯内自家側頭筋膜移植術	有 ・ (無)	0人
・骨髄細胞移植による血管新生療法	有 ・ (無)	0人
・ミトコンドリア病のＤＮＡ診断	有 ・ (無)	0人
・悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検	有 ・ (無)	3人
・鏡視下肩峰下腔徐圧術	有 ・ (無)	12人

高度先進医療の種類（医　科）	承　　認	取扱い患者数
・神経変性疾患のＤＮＡ診断	有 ・ (無)	0人
・脊髄性筋萎縮症のＤＮＡ診断	有 ・ (無)	0人
・難治性眼疾患に対する羊膜移植術	有 ・ (無)	0人
・固形がんに対する重粒子線治療	有 ・ (無)	0人
・脊髄腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	有 ・ (無)	1人
・ｶﾌｪｲﾝ併用化学療法	有 ・ (無)	0人
・$_{31}$燐-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	有 ・ (無)	0人
・特発性男性不妊症又は性腺機能不全症の遺伝子診断	有 ・ (無)	0人
・胎児尿路・羊水腔シャント術	有 ・ (無)	0人
・遺伝性コプロポルフィン症のＤＮＡ診断	有 ・ (無)	0人
・固形腫瘍（神経芽腫）のＲＮＡ診断	有 ・ (無)	3人
・硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	有 ・ (無)	0人
・重症ＢＣＧ副反応症例における遺伝子診断	有 ・ (無)	0人
・自家液体窒素処理骨による骨軟部腫瘍切除後骨欠損の再建	有 ・ (無)	0人
・膵腫瘍に対する腹腔鏡補助下膵切除術	有 ・ (無)	0人
・低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断	有 ・ (無)	0人
・悪性脳腫瘍に対する抗がん剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有 ・ (無)	0人
・高発がん性遺伝性皮膚疾患のＤＮＡ診断	有 ・ (無)	0人
・筋過緊張に対するmuscle afferent block（MAB）治療	有 ・ (無)	0人
・Ｑ熱診断における血清抗体価測定および病原体遺伝子診断	(有) ・ 無	18人
・エキシマレーザー冠動脈形成術	有 ・ (無)	0人
・活性化Ｔリンパ球移入療法	有 ・ (無)	0人
・抗がん剤感受性試験（CD-DST法）	有 ・ (無)	0人
・胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有 ・ (無)	0人
・家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有 ・ (無)	0人
・腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有 ・ (無)	0人
・膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術	有 ・ (無)	2人
・中枢神経白質形成異常症の遺伝子診断	有 ・ (無)	0人
・三次元再構築画像による股関節疾患の診断と治療	有 ・ (無)	0人
・樹状細胞と腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	有 ・ (無)	0人
・内視鏡下甲状腺がん手術	有 ・ (無)	0人
・骨腫瘍のＣＴ透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	有 ・ (無)	0人
・泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	有 ・ (無)	0人
・ＨＬＡ抗原不一致血縁ドナーからのＣＤ34陽性造血肝細胞移植	有 ・ (無)	0人
・下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法	有 ・ (無)	0人
・頚椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによる経皮的椎間板減圧術（CT透視下法）	有 ・ (無)	0人
・胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術	有 ・ (無)	0人
・活性化血小板の検出	有 ・ (無)	0人
・早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有 ・ (無)	0人
・ケラチン病の遺伝子診断	有 ・ (無)	0人
・隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有 ・ (無)	0人
・末梢血幹細胞血（ＣＤ34陽性細胞に限る。）による血管再生治療	有 ・ (無)	0人
・末梢血単核球移植による血管再生治療	有 ・ (無)	0人

高度先進医療の種類（医　科）	承　　認	取扱い患者数
・副甲状腺内活性型ビタミンD（アナログ）直接注入療法	有 ・ (無)	0人
・グルタミン受容体自己抗体による自己免疫性神経疾患の診断	有 ・ (無)	0人
・腹腔鏡下広汎子宮全摘出術	有 ・ (無)	0人
・一絨毛膜性双胎妊娠において発生した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	有 ・ (無)	0人
・自己腫瘍（組織）を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有 ・ (無)	0人
・自己腫瘍（組織）及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有 ・ (無)	0人

高度先進医療の種類（歯　科）	承　　認	取扱い患者数
・インプラント義歯	有 ・ (無)	5人
・顎顔面補綴	有 ・ (無)	2人
・顎関節症の補綴学的治療	有 ・ (無)	10人
・歯周組織再生誘導法	有 ・ (無)	2人
・接着ブリッジによる欠損補綴並びに動揺歯固定	有 ・ (無)	0人
・光学印象採得による陶材歯冠修復法	有 ・ (無)	0人
・エックス線透視下非観血的唾石摘出術	有 ・ (無)	0人
・レーザー応用による齲蝕除去・スケーリングの無痛療法	有 ・ (無)	0人
・顎関節鏡視下レーザー手術併用による円板縫合固定術	有 ・ (無)	0人
・顎関節脱臼内視鏡下手術	有 ・ (無)	0人
・耳鼻いんこう科領域の機能障害を伴った顎関節症に対する中耳伝音系を指標とした顎位決定法	有 ・ (無)	0人

先 進 医 療 の 種 類	承　　認	取扱い患者数
・高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	有 ・ (無)	0人
・自動吻合器を用いた直腸粘膜脱又は内痔核手術（PPH）	有 ・ (無)	0人
・画像支援ナビゲーションによる膝靭帯再建手術	有 ・ (無)	0人
・凍結保存同種組織を用いた外科治療	有 ・ (無)	0人
・強度変調放射線治療	有 ・ (無)	0人
・胎児心超音波検査	有 ・ (無)	0人
・内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	有 ・ (無)	0人
・画像支援ナビゲーションによる内視鏡下鼻内副鼻腔手術	有 ・ (無)	0人
・インプラント義歯	有 ・ (無)	5人
・顎顔面補綴	有 ・ (無)	2人
・人工中耳	有 ・ (無)	0人
・歯周組織再生誘導法	有 ・ (無)	2人
・抗がん剤感受性試験	有 ・ (無)	0人
・腹腔鏡下肝切除術	有 ・ (無)	0人
・生体部分肺移植術	有 ・ (無)	0人
・活性化血小板の検出	有 ・ (無)	0人
・末梢血幹細胞による血管再生治療	有 ・ (無)	0人
・カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	有 ・ (無)	0人
・先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	有 ・ (無)	0人
・超音波骨折治療法	有 ・ (無)	3人
・眼底三次元画像解析	有 ・ (無)	0人
・CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテーラーメイドのヘリコバクター・ピロリ菌除菌療法	有 ・ (無)	0人
・非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	有 ・ (無)	0人
・X線CT診断装置及び手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	有 ・ (無)	0人
・定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	有 ・ (無)	0人

注）　1　「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

2　高度先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

3　先進医療で上の表に掲げているものは、今年度の業務に関する報告の対象ではないが、来年度以降の参考のため記入すること。

2　特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾　患　名	取扱い患者数	疾　患　名	取扱い患者数
・ベーチェット病	12人	・モヤモヤ病（ウィリス動脈輪閉塞症）	50人
・多発性硬化症	1人	・ウェゲナー肉芽腫症	0人
・重症筋無力症	1人	・特発性拡張型（うっ血型）心筋症	67人
・全身性エリテマトーデス	7人	・多系統萎縮症	0人
・スモン	0人	・表皮水疱症（接合部型及び栄養障害型）	0人
・再生不良性貧血	0人	・膿疱性乾癬	0人
・サルコイドーシス	20人	・広範脊柱管狭窄症	0人
・筋萎縮性側索硬化症	0人	・原発性胆汁性肝硬変	0人
・強皮症，皮膚筋炎及び多発性筋炎	0人	・重症急性膵炎	0人
・特発性血小板減少性紫斑病	4人	・特発性大腿骨頭壊死症	0人
・結節性動脈周囲炎	0人	・混合性結合組織病	0人
・潰瘍性大腸炎	4人	・原発性免疫不全症候群	0人
・大動脈炎症候群	0人	・特発性間質性肺炎	0人
・ビュルガー病	10人	・綱膜色素変性症	0人
・天疱瘡	0人	・プリオン病	0人
・脊髄小脳変性症	3人	・原発性肺高血圧症	0人
・クローン病	0人	・神経線維腫症	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・悪性関節リウマチ	25人	・バッド・キアリ（Budd-Chiari)症候群	0人
・パーキンソン病関連疾患	20人	・特発性慢性肺血栓塞栓症（肺高血圧型）	0人
・アミロイドーシス	0人	・ライムゾーム病（ファブリー〔Fabry〕病）含む	0人
・後縦靭帯骨化症	16人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・ハンチントン病	1人		

注）　「取扱い患者数」欄には，前年度の年間実患者数を記入すること

3　病院・臨床検査の部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	(1) 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2　臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部部門と開催した症例検討会の開催頻度	年に１０回　　開催
剖　検　の　状　況	剖検症例数　　９３例　，　剖検率　　１５．５％

（様式第１１）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1　研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金　額	補助元又委託元	
涙液をもちいた眼表面の病態生理の検討	澤　充	眼科	221 万円	補	学術振興会科研費
橈骨動脈に対するアンジオテンシン受容体拮抗薬の血管保護作用に関する研究	秦光賢	心臓血管外科学分野	50 万円	補	日本大学医学部（創立 50 周年記念研究奨励金）
ヒト姿勢時振戦の非拘束下ニューロン活動記録とオンデマンド型脳深部刺激による制御	片山 容一	脳神経外科	1300 万円	補	科学研究費・基盤研究(A)
一次運動野および高次運動野の術中同定法と損傷後の機能回復に関する研究	深谷 親	脳神経外科	90 万円	補	科学研究費・基盤研究(C)
挫傷脳における脳浮腫形成の機序：血液脳関門機成蛋白と細胞外マトリックスの変化	川又 達朗	脳神経外科	70 万円	補	科学研究費・基盤研究(C)
ラット脳室内出血モデルにおける神経損傷の機序と治療法の開発	福島 匡道	脳神経外科	170 万円	補	科学研究費・若手研究(B)
ジストニアに対する脳深部刺激療法の至適刺激部位の検討：脳深部神経活動解析との比較	小林 一太	脳神経外科	110 万円	補	科学研究費・若手研究(B)
中枢性塩類喪失症候群の発現機序：脳損傷後の低ナトリウム血症の病態について	森 達郎	脳神経外科	210 万円	補	科学研究費・基盤研究(C)
脳血管障害後の片麻痺などに対する機能改善を目的とした大脳皮質運動領刺激の研究	山本 隆充	脳神経外科	250 万円	補	科学研究費・基盤研究(C)
組織プラスミノーゲンアクチベーターの神経毒性を抑えた血栓溶解療法	加納 恒男	脳神経外科	170 万円	補	科学研究費・基盤研究(C)

注１　国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

２　「研究者氏名」欄は、１つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

３　「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

（様式第１１）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1　研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金　額	補助元又委託元	
光工学技術と体内埋設型刺激ディバイスを用いた脳機能以上の分析と抑制	片山　容一	脳神経外科	2000 万円	補	文部科学省産学連携研究研究推進事業経費
ジストニアの疫学、診断、治療に関する総合研究	片山　容一	脳神経外科	100 万円	補	厚生労働省精神・神経疾患研究委託費
光量子脳工学寄付部門の設置	片山　容一（外科総括）	脳神経外科	15000 万円	補	浜松ホトニクス株式会社特別寄付
血液維持透析患者における血清マンノース結合レクチンと生命予後の検討	里村厚司	臨床検査医学科	30 万円	補	日本大学
稀少難治性皮膚疾患に関する調査研究	照井　正	皮膚科	130 万円	補	厚生労働省科学研究費（厚生労働省稀少難治性皮膚疾患研究費）
皮膚好酸球性炎症の動物モデルの作成とその制御機構の解析	照井　正	皮膚科	160 万円	補	文部省科学研究費
腎芽腫に関わる遺伝子異常の特性解明と遺伝子サイレシングに関する研究	草深　竹志	小児外科	220 万円	補	文部科学省科学研究費補助金基盤研究（C）
心臓移植における抗体依存性慢性拒絶反応のメカニズムの解析	上原　秀一郎	小児外科	100 万円	補	日本大学医学部医学奨励研究助成金
脊柱靭帯骨化症に関する調査研究	徳橋　泰明	整形外科	80 万円	補	厚生労働省科研費
高悪性度軟部腫瘍に対する標準的治療法の確立に関する研究	吉田　行弘	整形外科	80 万円	補	厚生労働省科研費

注１　国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

２　「研究者氏名」欄は、１つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

３　「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

（様式第１１）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1　研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金　額	補助元又委託元	
電子線利用研究施設の放射光（パラメトリックX線）を利用した生体高分子タンパク質の結晶構造解析―Vと医学生物学的研究	田中　良明，奥畑好孝，齋藤　勉	放射線科	60万円	補	日本大学量子科学研究所　平成18年度共同研究
温熱増感効果を期待した進行固形癌・再発癌に対する三次元原体照射の臨床研究	田中　良明，齋藤勉，藤井　元彰，齊藤　友也，前林　俊也	放射線科	200万円	補	平成18年度科学研究費補助金基盤研究（ｃ）（2）
単色X線の培養細胞に及ぼす放射線損傷の研究	田中　良明，齋藤勉	放射線科	96万円	補	平成18年度学術フロンティア推進事業
オーダーメイド医療実現化プロジェクト試料を用いたメタボリックシンドローム責任遺伝子の探索	上野　高浩	循環器内科	100万円	補	日本大学医学部
生体内時計と肥満、代謝異常との関連に関する検討	上野　高浩	循環器内科	400万円	委	三菱ウエルファーマ(株)
進行性腎障害に関する調査研究	松本　紘一	循環器内科	18万円	補	厚労省難治性疾患克服研究事業
味覚障害例の舌における味覚受容体遺伝子発現からみた味覚障害の病態解明	池田　稔	耳鼻咽喉科	290万円	補	学術振興会科研費
味覚障害の新しい診断法（ScReP）の開発とその応用	池田　稔	耳鼻咽喉科	590万円	補	日本大学
日本一般人口におけるむずむず脚症状と自覚的睡眠問題との関連	内山　真	精神神経科	190万円	補	科学研究費補助金(基盤研究（C))
日中の過眠の実態とその対策に関する研究	内山　真	精神神経科	100万円	補	厚生労働科学研究費補助金（こころの健康科学研究事業）

注1　国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2　「研究者氏名」欄は、１つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3　「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

（様式第１１）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1　研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金　額	補助元又委託元	
健康日本21 こころの健康づくりの目標達成のための休養・睡眠にあり方に関する根拠に基づく研究	内山　真	精神神経科	550 万円	補	厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業）
MRI と神経学的所見をマーカーとした統合失調症・感受性遺伝子の検索	高橋　栄	精神神経科	90 万円	補	日本大学学術研究助成金一般研究（共同）

注１　国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

２　「研究者氏名」欄は、１つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

３　「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

計　３２件

2　論文発表等の実績

雑誌名	題　　名	発表者氏名	所属部門
Anticancer Research 26 、1833-1848、2006	Vascular endothelial growth factor and dendritic cells in human squamous cell carcinoma of the oral cavity.	Kikuchi K, et al	病理部
J Cat Refract Surg 32: 666-671, 2006	Effect of surface coating an acrylic intraocular lens with (2-methacryloxyethyl phosphorylcholine) polymer on lens epithelial cell line behavior.	Sawa M, et al	眼科
Jpn J Ophthalmol 50: 1-6, 2006	Expression of β-defensins in ocular surface tissue of experimentally developed allergic conjunctivitis mouse model.	Sawa M, et al	眼科
Jpn J Ophthalmol 50: 38-43, 2007	Prognostic factors for progression of visual field damage in patients with normal-tension glaucoma.	Yamazaki Y, et al	眼科
日眼会誌　110：13-18、2006	季節性アレルギー結膜炎における涙液中 eosinophil cationic protein の測定.	澤　充、他	眼科
日眼会誌　110：276-281、2007	濾紙採取法を用いた涙液中分泌型 IgA の測定.	澤　充、他	眼科
日眼会誌　110：421-424、2007	妊娠高血圧症候群に合併した可逆性後部白質脳症の１例.	石川　弘、他	眼科
日眼会誌　110：468-472、2008	Primary position downbeat nystagmus の検討.	石川　弘、他	眼科
日眼会誌　110：723-729、2009	コンタクトレンズ装用者における涙液中ケモカイン濃度の検討.	澤　充、他	眼科
Nihon Univ. J. Med. 48: 125-135, 2006	Investigation of angiogenic factors in the vitreous and serum of proliferative diabetic retinopathy patients, using a simultaneous detection method with an antibody array system.	Masami Nakajima, Yumi Kamura, et al	眼科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2「発表者氏名」欄は、１つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2　論文発表等の実績

雑誌名	題　　名	発表者氏名	所属部門
Bulletin de la Soci?t? Franco-Japonaise des Sciences V?t?rinaires, 17・1-2:3-8 , 2006..	L'?tat d'isolement des esp?ces Pasteurella au apon.	荒島　康友	臨床検査医学科
Journal of Asian Architecture and Bulding Engineering, 5:355-360 , 2006.	A study on indoor air contaminants related to pets in Japanese dwellings	荒島　康友	臨床検査医学科
Nephron Clin Pract. 102: c93-99, 2006	Serum mannose-binding lectin levels in maintenance hemodialysis: impact on all-cause.	里村　厚司	臨床検査医学科
Nephro Dial Transplant. 21: 1729-1730, 2006	Mannose binding lectin level and polymorphism in patients on long-term peritoneal dialysis: level of serum mannose binding lectin with end-stage renal disease.	里村　厚司	臨床検査医学科
Haemophilia. 12:103-105, 2006	Anasarca improved by extracorporeal ultrafiltration through an internal shunt in a case of severe haemophilia B with inhibitor and steroid-resistant nephrotic syndrome.	里村　厚司	臨床検査医学科
日大医学雑誌 66: 3, 2007	マンノース結合レクチンが各種病態にあたえる影響.	里村　厚司	臨床検査医学科
Ther Apher Dial 10: 278-281, 2006	Evaluation of serological diagnosis tests for tuberculosis in hemodialysis patients	矢内　充	臨床検査医学科
INFECTION CONTROL 15: 1017-, 1019, 2006	特殊な領域でのマニュアルの作り方ー血液透析施設ー	矢内　充	臨床検査医学科
臨床病理　54: 1059-1065, 2006	血液培養の結果の生かし方　ー臨床検査医の関わり方の紹介をかねてー	矢内　充	臨床検査医学科
Ther Apher Dial 11; 80, 2007	Response to Can Serological Tests Tell Us Something About Latent Tuberculosis in Hemodialysis Patients?	矢内　充	臨床検査医学科

1 当該医療機関に所属する医師等が，掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち，高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2「発表者氏名」欄は，１つの論文発表について発表者が複数いる場合には，主たる発表者の氏名を記入すること。

2　論文発表等の実績

雑誌名	題　　名	発表者氏名	所属部門
医療と検査機器・試薬 29 (4)：325-334、2006.	尿自動分析装置「US-1000」の基礎的検討	熊坂　一成	臨床検査医学科
医療と検査機器・試薬：29 (2) 号 Pag137-148、2006. (4)	東ソー製HLC-723G8型ヘモグロビンA1C測定装置の検討	熊坂　一成	臨床検査医学科
日本臨床検査自動化学会会誌(0286-1607)31　巻　3　号 263-269(2006.06)	血糖値と不安定型HbA1Cの乖離現象を利用した異常ヘモグロビンの検出法　乖離現象の解析と有用性の検討	熊坂　一成	臨床検査医学科
Medical Technology 34(4):393-398,2006	わが国における微生物検査の外部精度管理の歴史と現状	熊坂　一成	臨床検査医学科
JIM: Journal of Integrated Medicin16 (10)：822、2006.	【特集　臨床検査の達人になる!】 外注検査をする際の注意点	熊坂　一成	臨床検査医学科
The Japanese Journal of Antibiotics(0368-2781)59 巻 6 号 Page428-451(2006.12)	2004年に全国77施設から分離された臨床分離株18,639株の各種抗菌薬に対する感受性サーベイランス、	熊坂　一成	臨床検査医学科
標準血管外科（日本血管外科学会教育セミナーテキスト１），：95-99, 2006.	非解剖学的バイパス術	根岸七雄	心臓血管外科学分野
Artif Organs, 30(1)：74-77, 2006.	The possbbility of a Veno-Arterial Bypass System Using the Abiomed BVS　5000	Akira Sezai	心臓血管外科学分野
クリニカ, 33 (1)：38-43, 2006.	バルーン、ステント、レーザーによる血管内治療の適用と実際	梅澤久輝	心臓血管外科学分野
Surgery Today, 36：131-134, 2006.	Efficacy of a Proton　Proton Inhibitor Given in the Early Postoperaive period to Relieve Symptoms of Hiatal hernia　After Open　Heart Surgery	Mitsumasa Hata*	心臓血管外科学分野

1 当該医療機関に所属する医師等が，掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち，高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2「発表者氏名」欄は，１つの論文発表について発表者が複数いる場合には，主たる発表者の氏名を記入すること。

2　論文発表等の実績

雑誌名	題　　名	発表者氏名	所属部門
Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery, 12(1) : 28-31, 2006.	Outcome of Emergency Conventional Coronary Surgery for Acute Coronary Syndrome Due to Left Main Cornary Disease	Mitsumasa Hata	心臓血管外科学分野
Heart View, 10(4) : 67-72, 2006	心臓外科手術に伴うANPの使用方法	瀬在明	心臓血管外科学分野
Circulation Journal, 70(4) : 389-392, 2006.	Ichirou Nohata, MD; Motomi Shiono, MD; Kazutomo Minami, MD; : Risk Analysis for Depression and Patient Prognosis After Open Heart Surgery	Mitsumasa Hata, MD	心臓血管外科学分野
SERGERY TODAY, 36 : 508-514, 2006.	Efficacy of Continuous Low-Dose Human Atrial Natriuetic Peptide Given From the Begiinning of Cardiopulmonery Bypass for Thoracic Aortic Surgery	Akira Sezai	心臓血管外科学分野
総合臨床, 55 (8) : 2016-2110, 2006.	海外渡航移植と臓器移植法案改正について	瀬在明	心臓血管外科学分野
Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery, 12(4) : 249-256, 2006.	40 Years Experrince in Mitral Valve Replacement Using Starr-Edward, St Jude Medical and ATS Valves	Akira Sezai, MD	心臓血管外科学分野
Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery, 12(4) : 297-299, 2006.	A Non-Operative Survival Case of an 84 -Year -Old Patient with Type A Acute Aortic Dissction Complicated by pulseless Tamponade	Mitsumasa Hata, MD,	心臓血管外科学分野
日大医学雑誌, 65 (5) : 320-325, 2006.	閉塞性動脈硬化症例おける血管内皮前駆細胞の動態	西井竜彦	心臓血管外科学分野
Circulation Journal, 70(11) : 1426-1431, 2006.	Effficacy of Low-Dose Continuous Infusion of a-Human Atrial Natriuetic Peqtide (hANP) During Cardiac Srgery -Possbility of Postoperative Left Ventricular	Akira Sezai, MD;	心臓血管外科学分野
血管外科, 25 (1) : 101-106, 2006.	海老の額角による右総頚仮性動脈瘤の１手術例	五島雅和	心臓血管外科学分野

1 当該医療機関に所属する医師等が，掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち，高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は，１つの論文発表について発表者が複数いる場合には，主たる発表者の氏名を記入すること。

2　論文発表等の実績

雑誌名	題　　名	発表者氏名	所属部門
Surg Today, 36 : 790-792, 2006.	Radial Artery Harvest Using the Sharp Scissors Mehod Method for Patients with patologcal on Allen's test	Mitsumasa Hata	心臓血管外科学分野
臨床整形外科 41 (4) : 389-396, 2006.4	除圧の適応と限界 MRI 矢状断像による除圧範囲の骨化巣後弯角に有用性	徳橋　泰明	整形外科
Journal of Arthroplasty 21(8) : 1105-11110, 2006.4	Midterm results of Matasul metal-on-metal total hip a.rthroplasty	斎藤　修	整形外科
日本脊椎インストゥルメントメンテーション学会誌 5(1) :11-15, 2006.9	頚椎椎体間ケージの使用経験	網代　泰光	整形外科
関節鏡 31 (3) : 135-140, 2006.10	解剖学的2重束ACL再建術の成績-シングルルート法の比較-	洞口　敬	整形外科
Journal of Orthopaedic Science11(2) : 191-197, 2006.11	Histological changes in intervertebral discs after smoking and cessation :experimental study using a rat passive smoking model.	根本　泰寛	
別冊整形外科 50 : 224-230, 2006.12	腰部脊柱管狭窄症に対する後方除圧手術における非固定成績不良例の検討-固定術の適応について-	古賀　昭義	整形外科
関節外科 25 (12) :28-35, 2006.12	NR 型人工肘関節置換術の長期成績	石井　隆雄	整形外科
骨・関節・靭帯 19 (2) :1159-1169, 2006.12	転移性脊椎腫瘍に対する手術のコツと落とし穴	徳橋　泰明	整形外科
東日本整形災害外科学会雑誌 19 (1) : 61-65, 2007.3	腰椎椎間板ヘルニアに対するＭＥＤ法（microenscopic discectomy）の初期症例の成績	松木　健一	整形外科

1 当該医療機関に所属する医師等が，掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち，高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は，１つの論文発表について発表者が複数いる場合には，主たる発表者の氏名を記入すること。

2　論文発表等の実績

雑誌名	題　　名	発表者氏名	所属部門
Journal of Orthopaedic Resarch25(1) : 116-121, 2007.1	Survivin expression levels as independent predictors of survival for osteosarcoma patients.	大幸　英至	整形外科
Haemophilia 12: 103-105, 2006	Anasarca improved by extracorporeal ultrafiltration through an internal shunt in a case of severe haemophilia B with inhibitor and steroid-resistant nephrotic syndrome.	松本紘一	循環器内科
Endocrine Journal 53: 111-117, 2006	A case of adrenocorticotropin-independent bilateral adrenal macronodular hyperplasia (AIMAH) with primary hyperparathyroidism (PHPT).	松本紘一	循環器内科
Clin Nephrol 66(1): 74-75, 2006	Lemmel's syndrome with cholangitis induced by glucocorticoid treatment.	松本紘一	循環器内科
Nephrol Dial Transplant 21(6): 1729-1730, 2006	Mannose-binding lectin level and polymorphism in patients on long-term peritoneal dialysis- level of serum mannose binding lectin with end-stage renal disease.	松本紘一	循環器内科
Nephron Clin Pract 102 (3-4), c93-c99, 2006	?Serum mannose-binding lectin levels in maintenance hemodialysis patients: Impact on all-cause mortality.	松本紘一	循環器内科
J Am Soc Nephrol 17 : 422-432, 2006	Development of gene silencing pyrrole-imidazole polyamide targeted to the TGF-β1 promoter for treatment of progressive renal diseases.	松本紘一	循環器内科
Intern Med 45 (5): 271-273, 2006	Correction of copper deficiency improves erythropoietin unresponsiveness in hemodialysis patients with anemia.	松本紘一	循環器内科
Ther Apher Dial 10 (1): 65-71, 2006	The influence of uremic serum on interleukin-1β and interleukin-1 receptor antagonist production by peripheral blood mononuclear cells.	松本紘一	循環器内科
Clin Nephrol 66(3): 166-170, 2006	Clinical study of influenza-associated rhabdomyolysis with acute renal failure.	松本紘一	循環器内科

1 当該医療機関に所属する医師等が，掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち，高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は，１つの論文発表について発表者が複数いる場合には，主たる発表者の氏名を記入すること。

2　論文発表等の実績

雑誌名	題　　名	発表者氏名	所属部門
Hypertension Research 30(7) : 585-592, 2007	Common single nucleotide polymorphisms in Japanese patients with essential hypertension: ALDH2 as a risk factor independent of alcohol consumption.	泉　洋一	循環器内科
Leukotrienes and Essential Fatty Acids 77(1) : 15-20 2007	Association between prostaglandin E2 receptor gene and essential hypertension.	泉　洋一	循環器内科
International Journal of Medical Sciences 4(3) : 146-152, 2007	A novel variable number of tandem repeat of the *natriuretic peptide precursor B gene's 5'-flanking* region is associated with essential hypertension among Japanese females.	泉　洋一	循環器内科
J Am Soc Nephrol. 17(2):422-432, 2006	Development of gene silencing pyrrole-imidazole polyamide targeted to the TGF-b1 promoter for treatment of progressive renal diseases.	上野高浩	循環器内科
日本老年医学会誌 43(5):622-629, 2006	高齢者びまん性肺傷害におけるユビキチン陽性細胞に関する研究	上野高浩	循環器内科
J Atheroscler Thromb. 13:314-322, 2006	Serum apolipoprotein j in health, coronary heart disease and type 2 diabetes mellitus.	上野高浩	循環器内科
J Hypertens. 25(3):671-678, 2007	Chimeric DNA-RNA hammerhead ribozyme targeting TGF-β1 mRNA efficiently ameliorated renal injury in hypertensive rats.	上野高浩	循環器内科
Otolaryngology-Head and Neck Surgery134(3)407-412, 2006	Assessment of phonatory function by the airway interruption method	牧山　清	耳鼻咽喉科
Nihon Univ J Med.	Pulmonary and bronchial arteriography in lung cancer: Angiographic and histologic type correlations.	Abe K, et al:	放射線科
Thermal Medicine	The past and present status of clinical hyperthermia in Japan: *a survey in 2004 using a questionnaire.*	Tanaka Y, et al	放射線科

1 当該医療機関に所属する医師等が，掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち，高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は，１つの論文発表について発表者が複数いる場合には，主たる発表者の氏名を記入すること。

2　論文発表等の実績

雑誌名	題　　名	発表者氏名	所属部門
臨床放射線	頭蓋内腫瘍に対する塞栓術と動注化学療法	高橋元一郎、他	放射線科
JOHNS	血管腫に対する血管内治療	高橋元一郎、他	放射線科
臨床放射線	亜致死障害からの修復とLQモデル	齋藤　勉	放射線科
日大医学雑誌	拡散強調MRIの躯幹部悪性腫瘍への臨床応用	奥畑好孝、他	放射線科
THE LUNG perspectives 14(2)：145-149	睡眠障害と臨床薬理学	内山　真	精神神経科
J Neurophysio 95：2293-2303	Effect of Benzodiazepine Hypnotic Triazolam on Relationship of Blood Pressure and Paco2 to Cerebral Blood Flow During Human Non-Rapid Eye Movement Sleep	Makoto U, et.al.	精神神経科
Pharma Medica 24(5)：33-36	不眠症への対応	内山　真、他	精神神経科
精神科 8(5)：379-384	薬を使わない不眠治療	内山　真	精神神経科
Sleep and Biological Rhythms 4：153-159	Restless legs syndrome and its correlation with other sleep problems in the general adult population of Japan	Makoto U, et.al.	精神神経科
中央公論 (9)：38812	睡眠障害という国民病～「眠り」は誤解されている～	内山　真	精神神経科

1 当該医療機関に所属する医師等が，掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち，高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2「発表者氏名」欄は，１つの論文発表について発表者が複数いる場合には，主たる発表者の氏名を記入すること。

2　論文発表等の実績

雑誌名	題　　名	発表者氏名	所属部門
最新精神医学 11(5)：455-459	概日リズム睡眠障害の診断と治療	内山　真	精神神経科
精神科治療学 21(増刊号)：378-381	REM 睡眠行動障害	内山　真	精神神経科
精神科 9(2)：173-177	SSRI により activation syndrome を呈した双極Ⅱ型　障害の１例	鈴木　正泰、他	精神神経科
臨床研修プラクティス 3(12)：34-40	不眠のコールに対応する	内山　真	精神神経科
治療 89(1 月臨時増刊号)：27-33	不眠を呈する患者の鑑別診断	内山　真	精神神経科
精神保健 10：200-206	睡眠障害	内山　真	精神神経科
精神神経学雑誌　108(11)：1230-1236	プライマリーケアーにおける不眠・過眠症状の診断・治療	内山　真	精神神経科
睡眠医療 1(2)：67-75	概日リズム睡眠障害と不眠症に対するメラトニン治療	内山　真	精神神経科
医学のあゆみ　219(13)：1075-1079	睡眠とうつ病	内山　真	精神神経科
今日の精神科治療指針　2006 臨床精神医学　2006 年 35(増刊)：186-192	非器質性睡眠障害	内山　真	精神神経科

1 当該医療機関に所属する医師等が，掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち，高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2「発表者氏名」欄は，１つの論文発表について発表者が複数いる場合には，主たる発表者の氏名を記入すること。

2　論文発表等の実績

雑誌名	題　　名	発表者氏名	所属部門
日大医学雑誌 66(1)：136-140	うつ病と睡眠に関する最新の知見	内山　真	精神神経科
日大医学雑誌 66(1)：110-115	悪性症候群を呈した ACTH 単独欠損症を伴った統合失調症の一例	降旗　隆二、他	精神神経科
精神科　ポケット辞典（新訂版）		内山　真、他	精神神経科
内科外来診療実践ガイドー縮刷版ー：306-308	不眠症	内山　真	精神神経科
内科外来診療実践ガイドー縮刷版ー：309-310	睡眠時無呼吸症候群	内山　真	精神神経科
睡眠障害治療の新たなストラテジーー生活習慣病からみた不眠症治療の最前線ー：55-61	睡眠衛生からみた睡眠障害への取り組みを探る	内山　真	精神神経科
Scand J Rheumatol. 35(4):295-9, 2006	Random number generation evaluation in patients with systemic lupus erythematosus indicates a heterogeneous nature of central nervous system vulnerability.	Sakae Takahashi, et al.	精神神経科
精神医学　49 (3):245-252, 2007	統合失調症の認知機能、中枢神経回路、感受性遺伝子を基盤にした新しい診断装置の開発	高橋　栄、他	精神神経科
J Gastroenterol Hepatol 21(8):1313-1219, 2006	Expression of cyclo-oxygenase-2 in gastrointestinal carcinoid tumors.	Masahiko Sugitani　Norimichi Nemoto　他	病理部
Transplant Immunol 16:60-64, 2006	Correlation between acute rejection severity and CD8-positive T cells in living related liver transplantation.	Masahiko Sugitani　他	病理部

1 当該医療機関に所属する医師等が，掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち，高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2「発表者氏名」欄は，１つの論文発表について発表者が複数いる場合には，主たる発表者の氏名を記入すること。

2　論文発表等の実績

雑誌名	題　　名	発表者氏名	所属部門
Acta Histochem Cytochem. 39(3):95-100, 2006	Survivin as a prognostic factor for osteosarcoma patients	Masahiko Sugitani Norimichi Nemoto 他	病理部
J Orthop Res. 25(1):116-21, 2007	Survivin expression levels as independent predictors of survival for osteosarcoma patients.	Masahiko Sugitani Norimichi Nemoto 他	病理部
日大医誌 65(4):275-279, 2006	C型肝硬変に対する生体肝移植の一例.	杉谷　雅彦　他	病理部
日大医誌 65(4):280-282, 2006	乳癌との鑑別が困難であった Peripheral Papilloma の1例	Masahiko Sugitani Norimichi Nemoto 他	病理部
Nihon Univ J Med 48:7-12, 2006	Granulomatous mastitis: a case report	Masahiko Sugitani Norimichi Nemoto 他	病理部
Nihon Univ J Med 48:47-53, 2006	Malignant lymphoma of the breast: report of a case.	Masahiko Sugitani 他	病理部
日大医誌 65(6):414-416, 2006	乳癌と鑑別が困難であった乳管内上皮過形成の1例	Masahiko Sugitani Norimichi Nemoto 他	病理部
第95回日本病理学会総会. 一般示説 P1-H-33, H18.4.30.-5.2. 東京. 日病会誌95:252, 2006	尿路上皮癌の組織学的悪性度とサイトケラチン 7, 20 の遺伝子発現量	杉谷雅彦　根本　則道　他	病理部
The Annual Meeting of American Gastroenterological Association Institute and Digestive Disease Week, S1356 (abstract pA-209) Los Angeles, California, May 20-25, 2006	Usefulness of the 13C02 Breath test in patients with active and quiescent ulcerative colitis given [1-13C]-buthyratge rectally.	Masahiko Sugitani 他	病理部
26th Anniversary Meeting of American Society for Reproductive Immunology, #1141478634 (American Journal of Reproductive Immunology 55(6):403, 2006) Loews Vanderbilt Hotel, Nashville, Tennessee, June 15-17, 2006	Expression of inducible microsomal prostaglandin E synthase in local endometriosis lesions.	Masahiko Sugitani 他	病理部

1 当該医療機関に所属する医師等が，掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち，高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は，１つの論文発表について発表者が複数いる場合には，主たる発表者の氏名を記入すること。

2　論文発表等の実績

雑誌名	題　　名	発表者氏名	所属部門
Biology and 11th FAOBMB Congress. 1P-C-088 (abstract p206), Kyoto, Japan, June 18-23, 2006	Is L-sign, C-type lectin of liver sinusoidal endoterial cells, requisite for hepatitis C virus infectioin in vivo? 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular	Masahiko Sugitani 他	病理部
茶の水消化器病研究会 演題 No.4, 東京, H18.6.29, 2006	糖尿病治療中に肝機能障害を来した一例	杉谷 雅彦 他	病理部
12th International Symposium on Viral hepatitis and Liver Disease P325 Paris, 1-5 July, 2006, Clinical Virology (supple2):S161, 2006	Investigation of Hepatitis E virus (HEV) RNA and Genotype in Sera of Bangladesh	Masahiko Sugitani 他	病理部
第 42 回日本肝癌研究会、一般演題 P-146 (抄録集 p197), 東京 H18.7.6-7.7, 2006	非 B 非 C 型肝細胞癌に多中心発癌、多段階発癌を認めた一例	杉谷 雅彦 他	病理部
第 42 回日本肝癌研究会、一般演題 P-280 (抄録集 p259), 東京 H18.7.6-7.7, 2006	胆汁を伴い偽腺管構造を示し肝細胞癌との鑑別を要した FNH の一例.	杉谷 雅彦 他	病理部
第 65 回日本癌学会学術総会、一般口演 O-093 (抄録集 p51), 横浜、H18.9.28-30, 2006	肝細胞癌再発 抑制マーカーの探索.	杉谷 雅彦 他	病理部
第 96 回日本病理学会総会. 一般示説 P1- 192, H19.3.13.-3.15. 大阪. 日病会誌 96:262, 2007	松果体原発の pleomorphic astrocytoma の一例	杉谷 雅彦 根本 道則 他	病理部
第 96 回日本病理学会総会. 一般口演 2-E-21, H19.3.13.-3.15. 大阪. 日病会誌 96:195, 2007	膀胱原発絨毛癌の一剖検例	杉谷 雅彦 根本 道則 他	病理部
第 96 回日本病理学会総会. 一般口演 3-I-19, H19.3.13.-3.15. 大阪. 日病会誌 96:228, 2007	播種性トリコスポロン症の病理診断における nested PCR 法の有用性	杉谷 雅彦 根本 道則 他	病理部
第 96 回日本病理学会総会. 一般示説 P3-90, H19.3.13.-3.15. 大阪. 日病会誌 96:327, 2007	非血縁者間造血幹細胞移植後に突然の心停止で死亡した Hunter 病の二例	杉谷 雅彦 根本 道則 他	病理部

1 当該医療機関に所属する医師等が，掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち，高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2「発表者氏名」欄は，1つの論文発表について発表者が複数いる場合には，主たる発表者の氏名を記入すること。

2　論文発表等の実績

雑誌名	題　　名	発表者氏名	所属部門
第 148 回日本肺癌学会　関東部会プログラム．演題 36，abstract p15，新潟 3.17.2007	多形腺腫転移の一症例	杉谷　雅彦　根本　道則　他	病理部
Association for the Study of the Liver, Kyoto, 27-30 March, 2007, O-140, Hepatology International 1:27, 2007	Hepatitis E virus Genotype in Bangladesh. 17th Asinal Pacific	杉谷　雅彦　他	病理部
Anticancer Res:26.1833-1848.2006	Vasucular Endothelial Growth Factor and Dendritic Cells in Human Squamous Cell Carcinoma of the Oral Cavity	Kentaro Kikuchi, Kaoru Kusama, Makoto Sano, Yoko Nakanishi, Toshiyuki Ishige, Sumie Ohni, Toshinori Oinuma, Norimichi Nemoto	病理部
Journal of Electron Microscopy 55:89-95.2006	Application of a quick-freezing and deep-etching method to pathological diagnosis: a case of elastofibroma	Akihiro Hemmi, Masahiko Tabata, Taku Homma, Nobuhiko Ohno, Nobuo Terada, Yasuhisa Fujii, Shinichi Ohno, Norimichi Nemoto	病理部
日本組織細胞化学編　組織細胞化学 143-148, 2006.8	細胞診検体からのレーザーマイクロダイセクション法	中西陽子、根本則道	病理部
臨床検査 50: 799-802, 2006, 7	病理組織検体におけるレーザーマイクロダイセクションの応用	中西陽子、根本則道	病理部
日本組織細胞化学編　組織細胞化学 137-142, 2006, 8	ELISPOT 法の原理と応用	早川　智、相澤（小峯）志保子、真島洋子、長縄　聡、根本則道、本田三男	病理部
Journal of Sastroenterology and Hepatology 21: 1313-1319, 2006	Expression of cyclo-oxygenase-2 in gastrointestinal carcinoid tumors	Shigeaki Mizuno, Kimitoshi Kato, Akemi Hashimoto, [Masahiko Sugitani, Aleemuzzaman Sheikh, Sachiko Komuro, Toyoharu Jike, Ariyoshi Iwasaki, Yasuyuki Arakawa, Norimichi Nemoto	病理部
Medical Hypotheses 67: 965-968, 2006	The death of Izanami, an ancient Japanese goddess: An early report of a case of puerperal fever	Satoshi Hayakawa, Shihoko Komine-Aizawa, Satoshi Nagasawa, Kazufumi Shimizu, Norimichi Nemoto	病理部
The nihon university journal of medicine 48: 7-12, 2006	GRANULOMATOUS MASTITIS: A CASE REPORT	Kenichi SAKURAI, Sadao AMANO, Katsuhisa ENOMOTO, Mitsuhiko KASHIO, Sadanori MATSUO, Nanano NEGISHI, Fumi FUCHINOUE, Masahiko SUGITANI, Norimichi NEMOTO	病理部

1 当該医療機関に所属する医師等が，掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち，高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2「発表者氏名」欄は，１つの論文発表について発表者が複数いる場合には，主たる発表者の氏名を記入すること。

2　論文発表等の実績

雑誌名	題　　名	発表者氏名	所属部門
Journal of Orthopaedic research january 25;116-121, 2007	Survivin Expression Levels as Independent Predictors of Survival for Osteosarcoma Patients.	Eiji Osaka, Takashi Suzuki, Shunzo Osaka, Yukihiro Yoshida, Hideyuki Sugita, Satoru Asami, Keiichi Tabata, Masahiko Sugitani, Norimichi Nemoto, Junnosuke Ryu	病理部
International journal of Urology 14;87-88, 2007	Intrascrotal involvement of sarcoidosis presenting like testicular appendices	Daisuke Obinata, Kenya Yamaguchi, Daisaku Hirano, Aya Fuchinoue, Norimichi Nemoto, Satoru Takahashi.	病理部
The nihon university journal of medicine 48: 19-29, 2006	Increased expression of the amino acid transporter LAT1 during healing of acetic acid-induced chronic gastric ulcers in rats	Shumpachi Miyamoto, Kimitoshi Kato, Yoshimoto Ishii, Shigeaki Mizuno, Satoshi Asai, Toyoharu Jike, Ariyoshi Iwasaki, Norimichi Nemoto, Yoshikatsu Kanai, Hitoshi Endou, Yasuyuki Arakawa	病理部
日大医学雑誌 66: 7-12, 2007	悪性腫瘍の病理学的本質と化学療法	早川　智、根本則道	病理部
American Journal of Reproductive Immunology 57; 218-226, 2007	Expression of inducible microsomal prostaglandin E synthase in local lesions of endometriosis patients	Fumihisa Chishima, Satoshi Hayakawa, Tatsuo Yamamoto, Masahiko Sugitani, Miki Karasaki-Suzuki, Kenji Sugita, Norimichi Nemoto	病理部
Genomic 89; 326-337, 2007	Analysis of tissue-specific differentially methylated resions (TDMs) in humans	Eiko Kitamura, Tun Igarashi, Aiko Morohashi, Naoko Hida, Toshinori Oinuma, Norimichi Nemoto, Fei Song, Srimoyee Ghosh, William A. Held, Chikako Yoshida-Noro, Hiroki Nagase	病理部
日本臨床検査医学会 55:535-539, 2007	骨盤腔に発生したgastrointestinal stromal tumorの細胞診および病理組織学的所見		病理部
日大医学雑誌 65（1）11～16, 2006	大学病院におけるクリニカルパスの有用性	星野　真由美	小児外科
Surgery Today 36 686～691, 2006	Pancreatitis After a Primary and Secondary Excision of Congential Choledochal Cystes	T koshinaga	小児外科
日本小児外科学会誌 42(6) 673～677, 2006	胸壁外アプローチを併用した腹腔鏡下胸骨後ヘルニア手術	益子　貴行	小児外科

1 当該医療機関に所属する医師等が，掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち，高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は，１つの論文発表について発表者が複数いる場合には，主たる発表者の氏名を記入すること。

2　論文発表等の実績

雑誌名	題　　名	発表者氏名	所属部門
日本小児外科学会誌 42(5)606～611, 2006	委員会報告：小児腫瘍専門医制度に関するアンケート調査の結果報告	草深　竹志	小児外科
Acta Pediatrica 95 1381～1388, 2006	Spontaneous localized intestinal perforation and intestinal dilatation in very-low-birthweight infants	K. koshinaga	小児外科
小児外科 38(5)646～649, 2006	未熟奇形腫の組織分類と病態	星野　真由美	小児外科
小児外科 38(8)952～957, 2006	腹会陰式肛門形成術（日大術式）の検証と今後の展開	池田　太郎	小児外科
Transplantation Proceedings 38(9)3058～3060, 2006	Effect of FTY720 in rat small bowel transplantation:apoptosis of crypt cells and lymphocytes in gut-associated lymphoid tissues	K. Sugito	小児外科
Pediatrics International 48 616-621, 2006	Study of 24 cases with congenital esophageal atresia:What are the risk factors?	K Sugito	小児外科
日大医学雑誌 (0029-0424) 65 (6) 367～375, 2006	神経芽腫における Shf の機能的役割に関する研究	古屋　武史	小児外科
Pediatrics International 49(1) 58～63, 2007	Intussusception in children of school age	T. Ikeda	小児外科
日本小児外科学会誌 43（1）23～31, 2007	小児腸重積症の臨床的検討	星野　真由美	小児外科
小児外科 39 (3) 281～286, 2007	特集　まれな新生児外科疾患の治療　虫垂炎	池田　太郎	小児外科

1 当該医療機関に所属する医師等が，掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち，高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2「発表者氏名」欄は，１つの論文発表について発表者が複数いる場合には，主たる発表者の氏名を記入すること。

2　論文発表等の実績

雑誌名	題　　名	発表者氏名	所属部門
日大医学雑誌 (0029-0424) 66 (1) 60～69, 2007	インターロイキン-２３と　α－ガラクトシルセラミドを用いた複合療法の強力な抗腫瘍効果 (Potent Anti-tumor effects of Combination therapy using interleukin-23 and α-galactosylceramide)	Kanedahide	小児外科
Brain Pathology 2007 Jan;17(1):5-10.	Aberrant hypermethylation of p14ARF and O-methylguanine-DNA methyltransferase genes in astrocytoma progression	Watanabe T, Katayama Y, Yoshino A, Yachi K, Ohta T, Ogino A, Komine C, Fukushima T	脳神経外科
Acta Neurochir 2007 Jun;149(6):557-65. Epub 2007 Apr 30.	Apoplexy accompanying pituitary as a complication of preoperative anterior pituitary function tests	Yoshino A, Katayama Y, Watanabe T, Ogino A, Ohta T, Komine C, Yokoyama T, Fukushima T, Hirota H	脳神経外科
Neurol Med Chir (Tokyo). 2007 Mar;47(3):95-100; discussion 100-1	Case volume does not correlate with outcome after cerebral aneurysm clipping: a nationwide study in Japan	Hattori N, Katayama Y, Abe T; Japan Neurosurgical Society.	脳神経外科
Neurol Med Chir (Tokyo). 2007 Feb;47(2):53-7; discussion 57.	Quantitative spectroscopic analysis of 5-aminolevulinic acid-induced protoporphyrin IX fluorescence intensity in diffusely infiltrating astrocytomas	Ishihara R, Katayama Y, Watanabe T, Yoshino A, Fukushima T, Sakatani K.	脳神経外科
Histol Histopathol. 2007 Feb;22(2):129-35.	Rapid microglial activation induced by traumatic brain injury is independent of blood brain barrier disruption	Koshinaga M, Suma T, Fukushima M, Tsuboi I, Aizawa S, Katayama Y	脳神経外科
Neurosurgery. 2007 Jan;60(1):E203-4; discussion E204	Neurenteric cyst arising in the high convexity parietal lesion: case report	Miyagi A, Katayama Y	脳神経外科
J Neurooncol. 2007 Jan 11	Promoter hypermethylation profile of cell cycle regulator genes in pituitary adenomas.	Yoshino A, Katayama Y, Ogino A, Watanabe T, Yachi K, Ohta T, Komine C, Yokoyama T, Fukushima T.	脳神経外科
Surg Neurology	Jugular bulb venous thrombosis caused by mild head injury: a case report	Shigemori Y, Koshinaga M, Suma T, Nakamura S, Murata Y, Kawamata T, Katayama Y	脳神経外科
Acta Neurochir Suppl. 2006;96:3-6.	Surgical management of early massive edema caused by cerebral contusion in head trauma patients.	Kawamata T, Katayama Y.	脳神経外科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2「発表者氏名」欄は、１つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2　論文発表等の実績

雑誌名	題　　名	発表者氏名	所属部門
Acta Neurochir Suppl. 2006;99:33-5	Detection of boundaries of subthalamic nucleus by multiple-cell spike density analysis in deep brain stimulation for Parkinson's disease	Kano T, Katayama Y, Kobayashi K, Kasai M, Oshima H, Fukaya C, Yamamoto T	脳神経外科
Acta Neurochir Suppl. 2006;99:25-8	Pallidal high-frequency deep brain stimulation for camptocormia: an experience of three cases	Fukaya C, Otaka T, Obuchi T, Kano T, Nagaoka T, Kobayashi K, Oshima H, Yamamoto T, Katayama Y	脳神経外科
Acta Neurochir Suppl. 2006;99:21-3	Feed-forward control of post-stroke movement disorders by on-demand type stimulation of the thalamus and motor cortex.	Katayama Y, Kano T, Kobayashi K, Oshima H, Fukaya C, Yamamoto T	脳神経外科
Oncol Rep. 2006 Nov;16(5):957-63.	Aberrant promoter hypermethylation profile of cell cycle regulatory genes in malignant astrocytomas	Ohta T, Watanabe T, Katayama Y, Yoshino A, Yachi K, Ogino A, Komine C, Fukushima T.	脳神経外科
Stroke. 2006 Oct;37(10):2514-20. Epub 2006 Aug 31	Effects of cerebral ischemia on evoked cerebral blood oxygenation responses and BOLD contrast functional MRI in stroke patients	Murata Y, Sakatani K, Hoshino T, Fujiwara N, Kano T, Nakamura S, Katayama Y.	脳神経外科
Neurol Med Chir (Tokyo). 2006 Aug;46(8):387-93; discussion 393-4.	Preliminary individualized chemotherapy for malignant astrocytomas based on O6-methylguanine-deoxyribonucleic acid methyltransferase methylation analysis.	Watanabe T, Katayama Y, Ogino A, Ohta T, Yoshino A, Fukushima T.	脳神経外科
Stereotact Funct Neurosurg. 2006;84(4):180-3	Thalamic sensory relay nucleus stimulation for the treatment of peripheral deafferentation pain	Yamamoto T, Katayama Y, Obuchi T, Kano T, Kobayashi K, Oshima H, Fukaya C	脳神経外科
Stereotact Funct Neurosurg. 2006;84(4):176-9.	Direct effect of subthalamic nucleus stimulation on levodopa-induced peak-dose dyskinesia in patients with Parkinson's disease	Katayama Y, Oshima H, Kano T, Kobayashi K, Fukaya C, Yamamoto T.	脳神経外科
Neuropathology. 2006 Jun;26(3):170-7	TrkA expression is associated with an elevated level of apoptosis in classic medulloblastomas	Ohta T, Watanabe T, Katayama Y, Kurihara J, Yoshino A, Nishimoto H, Kishimoto H	脳神経外科
Surg Neurol. 2006 Jun;65(6):569-76; discussion 576	Intraoperative monitoring of cerebral blood oxygenation and hemodynamics during extracranial-intracranial bypass surgery by a newly developed visible light spectroscopy system.	Hoshino T, Katayama Y, Sakatani K, Kano T, Murata Y.	脳神経外科

1 当該医療機関に所属する医師等が，掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち，高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は，１つの論文発表について発表者が複数いる場合には，主たる発表者の氏名を記入すること。

2　論文発表等の実績

雑誌名	題　　名	発表者氏名	所属部門
Surg Neurol. 2006 May;65(5):429-35; discussion 435.	Impact of stereotactic hematoma evacuation on medical costs during the chronic period in patients with spontaneous putaminal hemorrhage: a randomized study	Hattori N, Katayama Y, Maya Y, Gatherer A.	脳神経外科
Acta Neurochir (Wien). 2006 May;148(5):551-7; discussion 557. Epub 2006 Feb 9	Cerebral blood oxygenation changes induced by bypass blood flow in moyamoya disease and non-moyamoya cerebral ischaemic disease	Hoshino T, Sakatani K, Kano T, Murata Y, Katayama Y.	脳神経外科
Life Sci. 2006 May 1;78(23):2734-41. Epub 2005 Dec 19.	Changes of cerebral blood oxygenation and optical pathlength during activation and deactivation in the prefrontal cortex measured by time-resolved near infrared spectroscopy	Sakatani K, Yamashita D, Yamanaka T, Oda M, Yamashita Y, Hoshino T, Fujiwara N, Murata Y, Katayama Y.	脳神経外科
Acta Neurochir Suppl. 2006;96:130-3.	Matrix metalloproteinase-9 is associated with blood-brain barrier opening and brain edema formation after cortical contusion in rats.	Shigemori Y, Katayama Y, Mori T, Maeda T, Kawamata T.	脳神経外科
Acta Neurochir Suppl. 2006;96:40-3. Review.	Acute hemispheric swelling associated with thin subdural hematomas: pathophysiology of repetitive head injury in sports.	Mori T, Katayama Y, Kawamata T.	脳神経外科
Progress in Research on Brain Edema and ICP, 2006	Endovascular puncture model によるラットくも膜下出血の頭蓋内圧と低Na血症	森達郎　五十嵐崇浩　茂呂修啓　松崎粛統　小嶋純　川又達朗　片山容一	脳神経外科
脳神経外科, 34 (9): 939-942, 2006	上矢状静脈血栓症を合併した潰瘍性大腸炎の１例	重森裕　越永守道　須磨健　片山容一	脳神経外科
Jpn J Neurosurg (Tokyo) 15: 415-419. 2006.	眼窩部頭蓋骨海綿状血管腫の１例	佐藤祥史、茂呂修啓、重森裕、大渕敏樹、川又達朗、片山容一、佐々木健司	脳神経外科
CI 研究会 28 (②): 71-76, 2006	ラット一過性脳虚血モデルにおける flavoprotein 自家蛍光と体性感覚誘発電位の変化	五十嵐崇浩　横瀬憲明　星野達哉　藤原徳生　村田佳宏　加納恒男　小嶋純　酒谷薫　片山容一	脳神経外科
日大医誌 65 (3): 205-208. 2006	頭蓋内内頚動脈血豆状動脈瘤の一例	近藤裕子、重森裕、高田能行、村田佳宏、加納恒男、川又達朗、片山容一	脳神経外科

1 当該医療機関に所属する医師等が，掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち，高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は，１つの論文発表について発表者が複数いる場合には，主たる発表者の氏名を記入すること。

2　論文発表等の実績

雑誌名	題　　名	発表者氏名	所属部門
The Nihon University of Medicine Vol. 48, No.4 2006	ROLE OF MATRIX METALLOPROTEINASE IN CEREBRAL CONTUSION: MMP INHIBITOR ATTENUATES BLOOD-BRAIN BARRIER DISRUPTION AND BRAIN EDEMA AFTER TRAUMATIC BRAIN INJURY	Yutaka Shigemori	脳神経外科

1 当該医療機関に所属する医師等が，掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち，高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2「発表者氏名」欄は，１つの論文発表について発表者が複数いる場合には，主たる発表者の氏名を記入すること。

計　１８１件

（様式第12）

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長　　澤　　充
管理担当者氏名	庶務課長：伊藤 伸行　医事課長：榎並 修一　病歴課長：千葉 哲夫 薬剤部長：丹正 勝久　医学部庶務課長：立石 重美

			保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約			病歴課	病歴資料については，カルテ，エックス線写真とも個人別，科別，年度別にファイルしており，外来資料については５年間，入院資料については永久保存を原則としている。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿		医学部庶務課 板橋病院庶務課	
	高度の医療の提供の実績		病歴課 当該診療科	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績		病歴課 当該診療科	
	高度の医療の研修の実績		当該診療科	
	閲覧実績		病歴課 庶務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績		庶務課 医事課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿		庶務課 医事課 薬剤部	
	体制確保の状況（規則第9条の23及び第11条各号に掲げる）	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理室 庶務課	
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	院内感染対策室 庶務課	
		医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理室 庶務課	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理室 庶務課	
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室 庶務課	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室 庶務課	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室 庶務課	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室 庶務課	

（注）「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	事務長　小林　清
閲覧担当者氏名	庶務課長：伊藤　伸行　会計課長：瀧澤　義昭　医事課長：滝沢　哲雄 病歴課長：千葉　哲夫　医学部庶務課長：立石 重美
閲覧の求めに応じる場所	庶務課・病院会議室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数			延　4件
閲覧者別		医師	延　0件
		歯科医師	延　0件
		国	延　3件
		地方公共団体	延　1件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	５９．２４%	算定期間	平成１８年４月１日～平成１９年３月３１日
算出根拠	A：紹介患者の数		１９，７５５人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		１４，２３１人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		７，２７３人
	D：初診の患者の数		５５，４０７人

(注)　1　「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2　A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

（様式第13-2）

規則第９条の２３及び第１１号各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	(有)（1名）・無
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	(有)（1名）・無
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	(有)・無

・所属部員：専任（1）名　兼任（8）名

・主な内容：

医療安全管理室を設置し，医療安全管理委員会において検討された方針に基づき，組織横断的観点から安全管理対策を企画・立案・実施及び改善を図る。

④ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	(有)・無
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	(有)・無

・指針の主な内容：

日本大学医学部附属板橋病院は患者の生命の尊厳と安全を確保し，常に高度で先進的な医療を提供する特定機能病院として，安全管理体制の強化を図るため，平成12年3月に医療事故防止マニュアルを作成し，以下の指針及び安全管理体制の確保のための委員会並びに医療事故発生時の対応方法をマニュアル化し整備した。

① 医療法の改正に伴い安全管理に関する基本的な考え方等医療安全管理指針を改定（基本理念及び完全管理指針）　（平成12年3月制定，平成16年1月改定，平成19年9月改定）

② 安全管理体制組織運営

・医療安全管理室運営規則（平成16年1月制定，平成17年11月改訂）

・リスクマネジャーに関する規則（平成16年1月制定）からセーフティマネジャーに関する規則と名称変更（平成18年9月改訂）また，諸規則に記載されている「リスクマネジャー」は「セーフティマネジャー」と読み替えて運用。

・医療安全ワーキンググループ設置規約（平成18年4月制定，平成18年9月改訂）

③ 安全管理体制確保のための委員会

・医療安全管理委員会規則（平成12年5月制定，10月改定，平成14年4月改定，平成16年1月改定，平成17年11月改訂，平成19年9月改訂）

・医療事故対策特別委員会規則（平成12年5月制定，平成16年1月改定，平成17年11月改定）

④ 医療事故発生時の対応方法

・インシデント・アクシデントレポート運用規則（平成12年5月制定，平成13年2月改定，平成13年4月改定，平成16年1月改定，平成18年9月改定，平成19年9月改定）

・インシデント・アクシデントレポートフローチャート（平成12年5月制定，平成13年2月改定，平成13年4月改定，平成16年1月改定

・重大医療事故報告ルートフローチャート（平成12年8月制定，平成14年4月改定，平成19年9月改定）

⑤ 患者相談室窓口運用要項（平成15年10月制定，平成16年1月改定）

・患者相談窓口フローチャート

⑥ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況　　年 12 回

・活動の主な内容：

「医療安全管理委員会」は副病院長を委員長として，専任医療安全管理者・診療部門・看護部門・中央部門（薬剤部，中央放射線部，臨床検査部）・事務部門から選出された委員（セーフティマネジャー）により構成されている。定例で月１回の会議を開催し，当院における医療に係る安全管理の基本を決定し，医療事故防止対策の検討及び医療安全の推進を図っている。また，年３回の医療安全講習会の企画・運営を行っている。
下部組織として各部門の主任以上の者にセーフティマネジャーを任命し，各部署において医療安全対策を推進している。

⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況　　年 3 回

・研修の主な内容：

医療安全管理指針に基づき，安全管理体制と医療事故を未然に防ぐために以下の研修を実施しした。
① 平成18年6月26日（月），28日（水），29日（木）
※第1回医療安全講習会
「医療従事者間のｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ」
②平成18年11月10日（火），15日（水），17日（金）
※第2回医療安全講習会
「これってｲﾝｼﾃﾞﾝﾄ？，ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞﾌﾟﾘｺｰｼｮﾝ」
平成19年3月9日（金），13日（火），15日（木）
※第3回医療安全講習会
「個人情報保護法に関わる問題点」
「医療安全ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟの成果報告」

⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況

・医療機関内における事故報告等の整備：　(有)　無

・インシデント・アクシデント・レポートにより，速やかに報告を行う体制を整備している。

・その他の改善のための方策の主な内容：

①インシデント・アクシデントレポートによる速やかな報告の推進。平成18年度にはインシデントレポートシステムを導入しオンライン化を図った。
②提出されたインシデントレポート，外部のレポート，現場からの問題提起，インターネットやメディファックスなどから事例を収集・把握し，情報を得ている。また，上記情報を踏まえて，医療安全管理室は報告された内容を事例によっては当事者立会いによる現場での聞き取りや状況確認を行い，レベルの高い事故事例については平成18年度から設置した4部門の事例別ワーキンググループに付託し，詳細な原因究明分析を行い改善策の検討を行っている。
③24時間いつでも提出可能にするために，医療安全管理室にポストを設置。
④医療安全管理室室員の連携（情報交換）をとるために，週1回の連絡会を開催し，情報の共有化を図り，分析・予防対策等の検討を行っている。
⑤専任医療安全管理者が病棟ラウンドを行い，報告内容の確認及びリスクマネジャーとの連携をとっている。
⑥「ヒヤリ・ハット通信」「医療安全注意報」等の発行時には，回覧で読んだことを証明してもらうため，確認票も添付し，そこにサイン（押捺）させ，医療安全管理室で確認票を収集・管理している。
⑦可及的速やかに検討が必要な事例が発生した場合，当該部署の医師や看護師ならびにそれに関連する部署の者も集めて「緊急症例検討会」を開催し，今後同じことが起こらないようにするための防止策を検討・実施している。